

市民の皆さんへ
本基本計画(案)は様々なイベントや市民対話等で市民の皆さんからご意見をいただき、策定しました。
たくさんのご意見やアイデアを頂戴し、誠にありがとうございました。

ビジョン - 基本理念 -

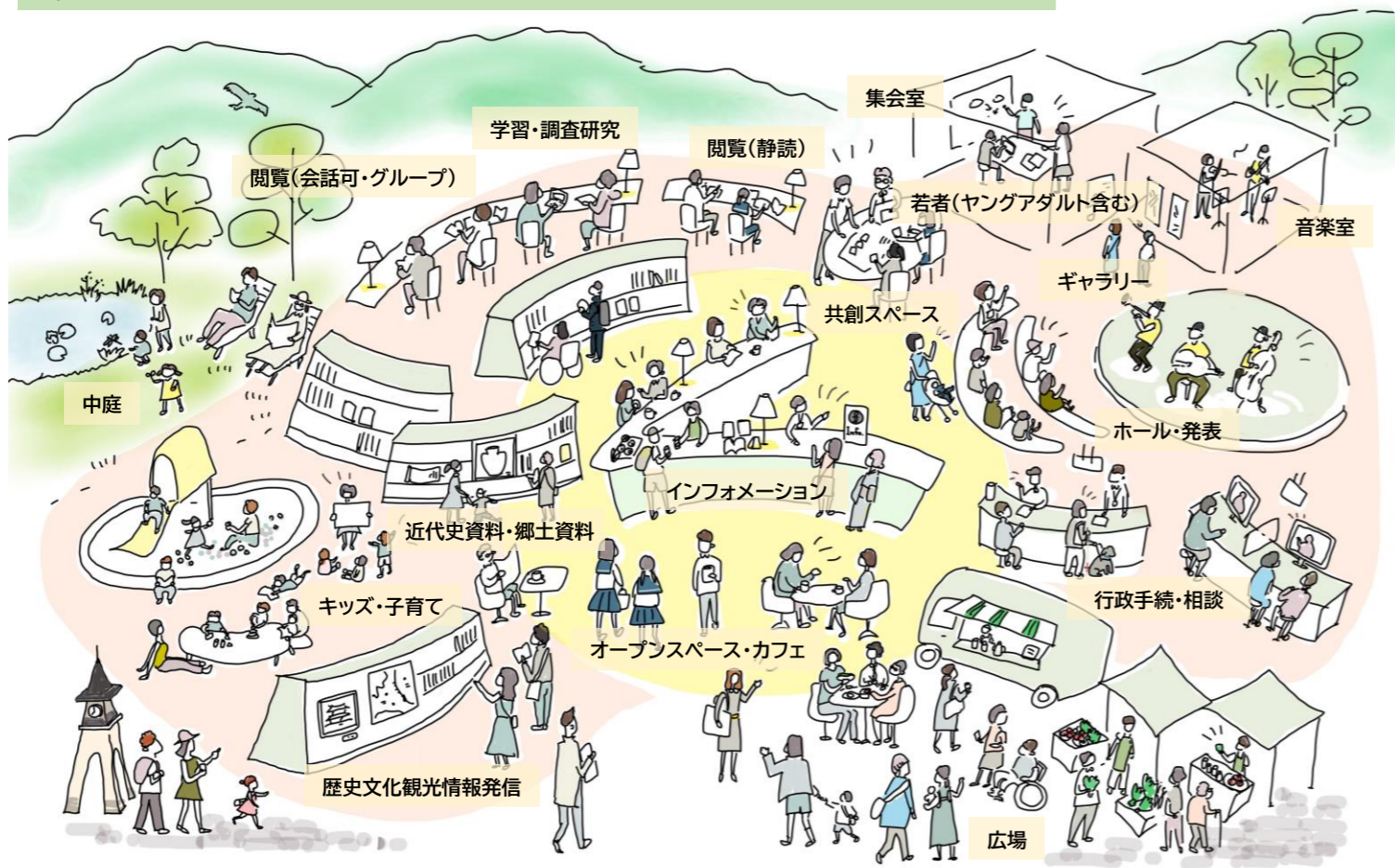
ひらいて むすんで 知恵をうむ “ふみくら”

鎌倉の拠点である市庁舎現在地は、手続や相談といった行政サービス機能や情報発信機能、鎌倉駅周辺にある公共施設(中央図書館、鎌倉生涯学習センター、市民活動(NPO)センター)を複合化し、これに民間機能も加わることで、鎌倉の拠点にふさわしい新たな価値を創出し、誰もが気軽に利用でき、つどい、まなび、つながる、魅力あふれる居場所として新しく生まれ変わります。

本施設の位置付け

「市役所が移転したら跡地はどうなるのか」「行政手続や相談窓口はどうなるのか」といった市民の皆様の不安の声に応えるため、本施設を「鎌倉庁舎」として位置付け、支所を超える行政サービス機能として、現在の市役所1階で対応している主な手続や相談に対して、オンラインによるサービスも活用しながら「できない手続・相談はない」状態を目指します。合わせて、災害時においても市民の拠り所となる防災拠点として、地震等の災害時の一時的避難や津波時に避難できる施設としての役割を持たせるほか、災害時の被害状況等に応じて「現地災害対策本部」としても使用できるように整備します。

本施設が目指す機能や活動のイメージ



※配置や規模を表現したものではなくイメージイラストです

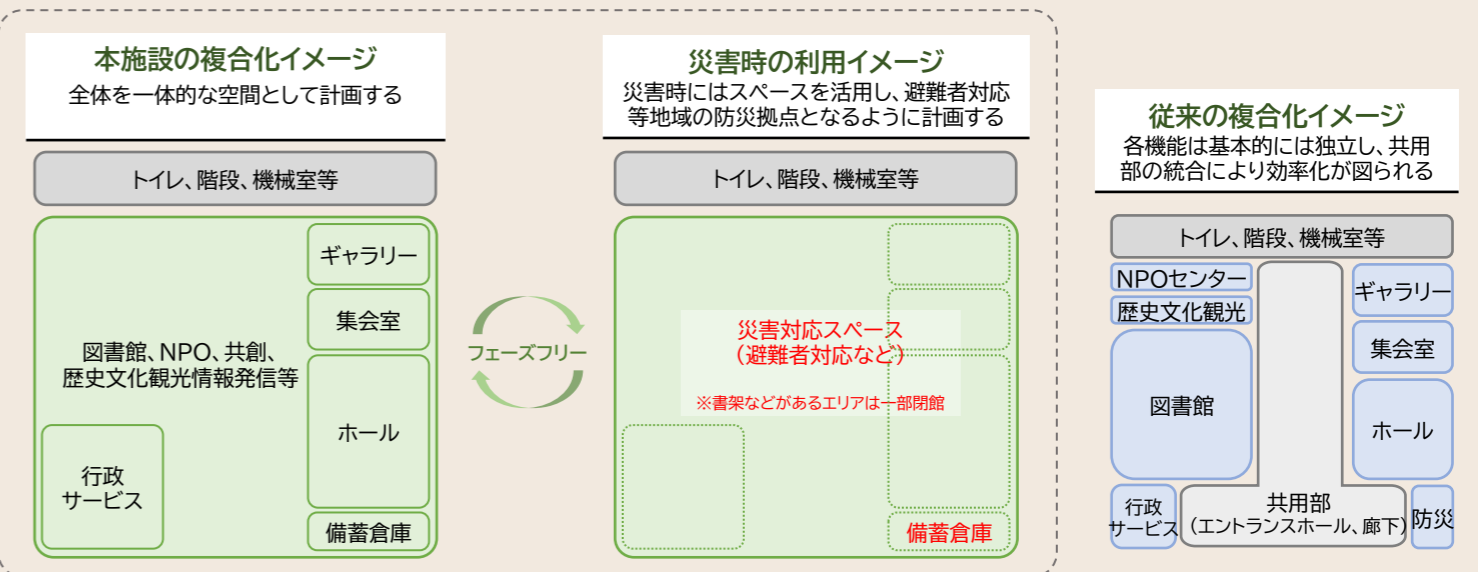
“ふみくら”とは

ふみくら(文庫)とは、資料を整理して保管する建物を意味する言葉で、その起源は古く、奈良時代にさかのぼります。鎌倉時代には、武家文化における幕府等の資料を保管したものや御家人などの屋敷にも「ふみくら」が設けられており、書写などの活動も行われた場であったそうです。

歴史・文化をつむぐ、鎌倉の知識の蓄積の場、まちとつながり、人と情報の交流が結節し、学びや共創の場として生まれかわるこの拠点のビジョンを、歴史・文化を次の世代に引き継ぐ場として「ひらいて むすんで 知恵をうむ “ふみくら”」としました。

導入する機能及び複合化の方針

- 本施設では「行政サービス機能(裏面参照)」、「中央図書館機能」、「生涯学習機能(ホール・ギャラリー等)」、「防災機能」に加え、「市民活動の場」、「歴史・文化・観光情報の発信」、「共創の場」、「民間機能」、「広場等オープンスペース」を導入します。
- 様々な公共機能を集約し融合させることで複合的なサービスを提供し、さらに、相乗効果をうみ出す民間機能を複合化することで、共生社会の実現につながる『もの』や『こと』を、市民と民間企業と鎌倉市が共に創造することを目指します。



本施設でできること - 実現に向けた方針 -

本施設では、「①知識をひらく」、「②多様な交流をむすぶ」、「③知恵をうむ」の役割に加え、これら三つの役割を果たすための基盤として「④日常生活を支える」という役割を果たします。

1 【知識をひらく】
正確で多様な知識の収集とネットワーク化に取り組み、広く市民に提供します

- 知識の収集**
現中央図書館が保管する書籍や歴史文化資料の継承、新たな資料の収集等
- 知識のネットワーク化**
資料のネットワーク化、多様な地域情報のネットワーク化等
- 知識の提供**
資料の提供と資料の使い方の伝達・支援、情報を収集する環境の提供等

2 【多様な交流をむすぶ】
活動の様子と成果を公開し交流を生むことで多様な市民・団体を結びつけます

- 活動の場の提供**
日常的な憩い・活動の場の提供、市民活動等の場と設備の提供等
- 活動の公開**
市民活動等の一覧化と展示等
- 交流の促進**
市民・団体・大学等が交流するイベントの開催等

3 【知恵をうむ】
継続的に『もの』と『こと』を創造し、そこで生まれる知恵を蓄積し共有します

- もの・こと・ひとづくり**
産官学民とのネットワークづくり・コミュニケーション、プロジェクトの立ち上げ支援等
- 知恵の蓄積と共有**
プロジェクトの記録とアーカイブ化、プロジェクトの結果の公開・展示等

4 【日常生活を支える】
様々な主体と連携して市民の日常生活を支えます / 全ての活動の基盤となる情報リテラシーの向上を支援します

- 日常生活への寄り添い**
日常生活に必要な情報や資料の提供、行政サービス(手続)とよろず相談等
- 防災**
備蓄倉庫や資機材等の管理、防災情報提供体制の充実等
- 情報リテラシーの向上支援**
情報リテラシーに関する研修や講座の開催、端末の貸出等

行政サービスの方針

本編
第2章

現在の市役所1階で対応している主な手続及び相談について、オンラインによるサービスも活用しながら、**本施設では「できない手続・相談はない」状態を目指します。**

サービスの形態は以下のような【A】～【C】の三つの形態を想定します。



コンシェルジュ

生活のご相談ですね？
【A】窓口スペースを
ご案内します

【A】【窓口スペース】

対面相談（総合相談窓口）



〇〇〇の相談でしたら
【B】個室ブースで
新庁舎の窓口にお
繋ぎいたします

【B】【個室ブース】

オンラインで新庁舎の窓口と接続



〇〇〇の手続は
【C】手続スペースの端末で
操作方法はスタッフがサポート
いたします

【C】【手続スペース】

オンライン

お困りですか？



| 分野 | 本施設で扱う手続・相談の例 (現在の市役所1階で対応している主な「手続・相談」) |
|----------|---|
| 戸籍・住民の手続 | 証明書発行、転出届などの各種手続 |
| 税 | 市税関係諸証明等の交付手続、納付に関する相談 など |
| 子育て | 児童手当、子育て相談 など |
| 福祉 | 高齢者福祉、障害福祉に関する相談 など |
| 環境 | 生ごみ処理機購入費助成、転入時のごみの分け方・出し案内 など |
| 地域 | 地域活動支援、自治会・町内会の相談 など |
| 総合相談 | くらしと福祉の相談窓口のような生活に関わる相談 など |

※上記はあくまで一例です。

《ワンストップ》

コンシェルジュが、来庁された方のお話をお伺いし、意向に沿った手続・相談を提供できるように体制を整えます。

《社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)》

オンラインに不慣れな方や、障害など様々な事情をお持ちの方にサポートスタッフが寄り添い、安心して手続・相談を行えるようにします。

《フレキシブルな対応》

上記の【A】～【C】の席数につきましては、混雑状況を鑑みながら、席数の増減を柔軟に対応できるようにすることで、お待たせすることのないよう努めていきます。

民間機能

本編
第2章

本施設が担う四つの役割と相乗効果がうまれる民間機能の導入を目指します。機能の選定は基本計画策定後となりますが、以下に例を示します。

| 役割 | 民間機能の例 ※導入を確定したものではありません。 |
|-------------|--|
| ① 知識をひらく | ミュージアム、研究機関(例えば、リビングラボのような市民と企業等が社会課題解決のサービスや商品を生み出すラボ、企業や大学のサテライトラボ) など |
| ② 多様な交流をむすぶ | イベントスペース、屋内型こども施設、地域の食材を使用した飲食店舗、体験型宿泊施設 など |
| ③ 知恵をうむ | シェアオフィス、オープンイノベーション施設 など |
| ④ 日常生活を支える | 物販店舗(災害時の物資提供について協力)、サービス系店舗(フィットネス、健康増進施設)、情報通信系サービス店舗、PC・スマホ教室 など |

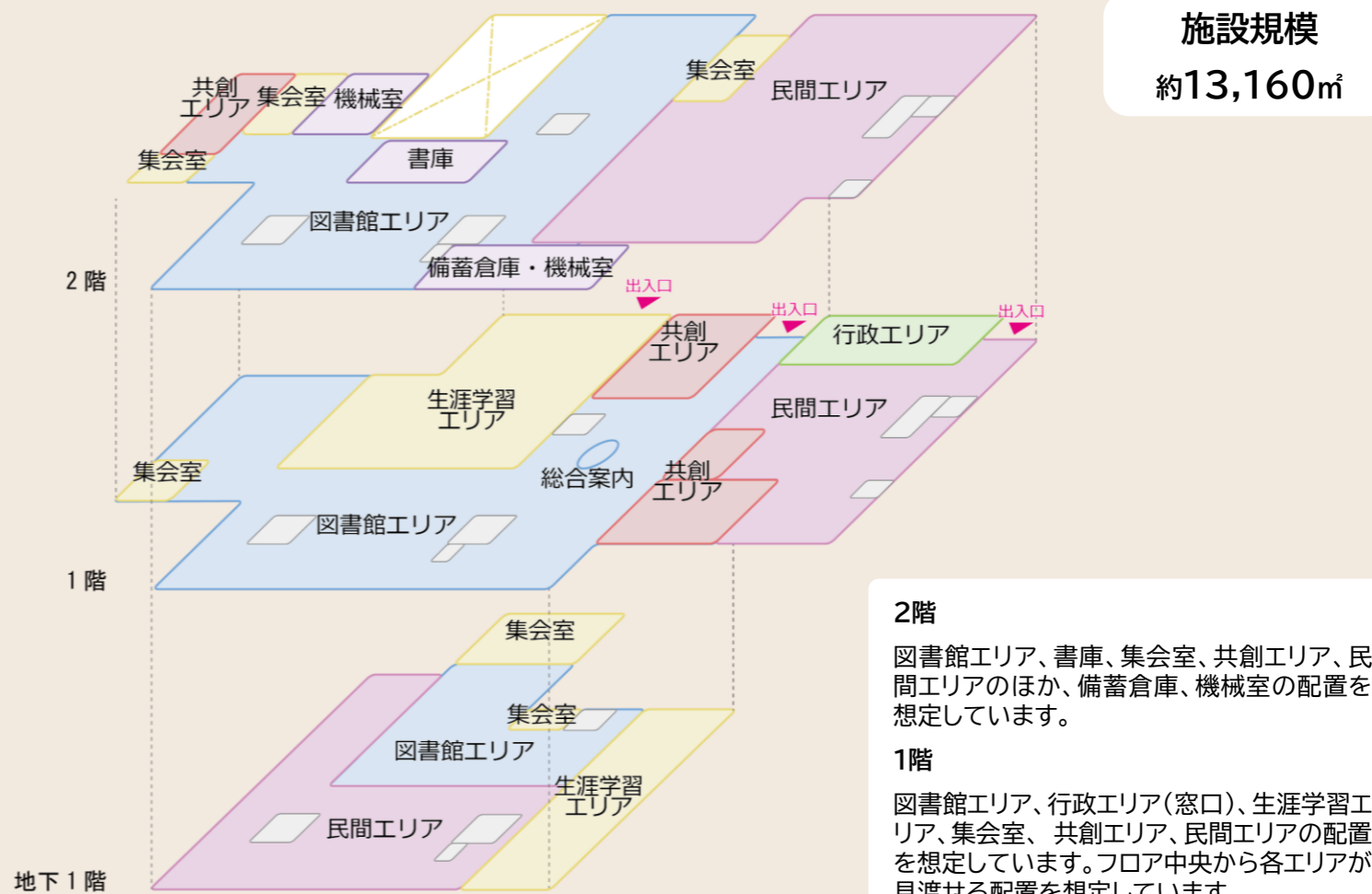
既存施設の活用可能性

本編
第3章

床の積載荷重や耐震性、耐久性の観点から見ると、本施設において、既存施設の活用は非常に難易度が高いと考えられます。また、既存施設を活用する場合の改修費は、新築の場合の工事費より高くなります。そのため、既存施設を活用する民間提案の可能性は残りますが、総合的に判断し、新築に優位性があると考えます。

モデルプラン

本編
第4章



施設規模
約13,160㎡

2階

図書館エリア、書庫、集会室、共創エリア、民間エリアのほか、備蓄倉庫、機械室の配置を想定しています。

1階

図書館エリア、行政エリア(窓口)、生涯学習エリア、集会室、共創エリア、民間エリアの配置を想定しています。フロア中央から各エリアが見渡せる配置を想定しています。

地下1階

図書館エリア、ギャラリー等を含む生涯学習エリア、集会室、民間エリアの配置を想定しています。

※本モデルプランは、事業成立性を検証するために作成したものであり、具体的な施設整備の計画を示したものではありません。現時点でのイメージであり、設計の段階において具現化します。

整備費及び事業手法

本編
第5章

本施設の整備費は、官民連携手法での整備を前提に、民間施設部分を含めて約139.6億円と想定されます。

事業手法は、PFI+貸付方式を最有力候補、借地+リース方式を次の候補としつつ、最適な事業手法を引き続き検討します。なお、民間事業者17社にヒアリング調査を実施した結果、多くの事業者が本事業に関心を持っていることが確認されました。

今後の進め方

本編
第6章

基本計画策定後も引き続き市民や民間事業者との共創・対話を通して、提供サービスの具体化に取り組みます。(共創プロセスの実践)その上で、事業パートナーとなる民間事業者を選定し、本施設の設計・施工、維持管理運営へとステップを進めていきます。

STEP 1
共創プロセス
の実践

STEP 2
事業
パートナー
の募集・選定

STEP 3
設計・施工
/維持管理
運営

もっと詳しく知りたい方は

本編では、より詳しく記載しております。ホームページからご覧ください。
https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/chousya-seibi/pubcom_genzaichikeikaku.html

